

石狩川下流域外減災対策協議会 空知川地域部会(第9回)

- 堤防の決壊や越水等に伴う氾濫に備え、河川管理者、北海道、市町村等の関係者が連携して減災のための目標・取組方針を共有し、社会全体で常に洪水に備える「水防災意識社会」を再構築することを目的とし、ハード・ソフト対策を一体化、計画的に進めており、その取り組み状況についてのフォローアップ等を行うため空知川地域部会を開催した。

日 時：令和7年2月12日（水）13：30～15：00

開催方法：WEB会議

構成員：北海道開発局（札幌開発建設部）
芦別市、赤平市、富良野市
上富良野町、中富良野町、南富良野町
気象台（札幌管区気象台、旭川地方気象台）
北海道（空知総合振興局、上川総合振興局、
札幌建設管理部、旭川建設管理部）
北海道警察、北海道電力(株)

オブザーバー：国土地理院（北海道地方測量部）
北海道運輸局
北海道旅客鉄道(株)

報告のあった自治体の取り組み事例

- ・ 防災講話、1日防災学校、出前講座、防災訓練を実施
 - ・ 田んぼダムの整備
 - ・ ハザードマップ、防災ガイドマップの更新
 - ・ 災害時の相互応援協定の締結
 - ・ エリアサポーターの養成
 - ・ 発電機や排水ポンプ等の機能点検
 - ・ 備蓄品の増強
 - ・ 気象情報モニタリングシステムの試行運行
 - ・ 復旧工事への補助金制度導入による被害軽減対策
 - ・ 幾寅地区MIZBEステーションの建築工事
- など

地域部会の様子（WEB開催）



芦別市

赤平市

富良野市

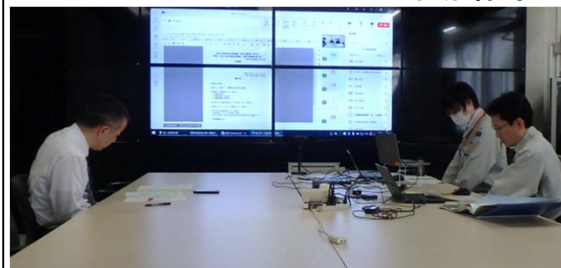


上富良野町

中富良野町

南富良野町

自治体等主な会場



札幌開発建設部



空知川河川事務所

※写真を掲載しているのは参加者（会場）のうちの一部です

減災や流域治水に関する新たな取組や工夫した取組について



芦別市長

代理出席：総務防災課

- 田んぼダムの整備を継続的に実施。
- 小学校で年2回、一日防災学校を開催し新聞紙スリッパ・ダンボールベッド・マイタイムラインを協力。
- 自立支援協議会やみんなで介護を考える会などの施設事業者職員に対して防災講話を実施。
- 10自治体で「災害時の相互応援協定」を締結し防災力向上を図り、備蓄食料や飲料水、生活応援需品等の物資提供を行う。



赤平市長

- 防災訓練や出前講座などの講和を実施して防災知識の普及啓蒙を図る。
- 健康でお互いに支え合うことで孤立することをなくすことを目的としたエリアサポーターの養成。
- 市民・関係者130名以上が参加して赤平市総合防災訓練を実施。
- ハザードマップの改良、周知、活用に伴い防災マップも継続的に随時交付。



富良野市長

代理出席：総務部長

- 発電機・排水ポンプ等の配置計画について再確認及び機能点検を実施し、堤内排水路の整備や田んぼダムに関する取組を実施
- 市民・関係機関及び市職員110名が参加した市民参加型の防災訓練を実施(含む、消防団による土嚢作成訓練、市職員による給水所の開設)
- 防災訓練においては、災害対策本部を設置して避難所開設・運営及び住民の避難誘導などの実行動との接続により、災害対策本部機能の強化
- 富良野市立地適正化計画を作成し、防災指針、災害リスクの把握等の取組方針を盛り込み済み。
- 市民参加型の防災訓練、出前講座及び一日防災学校への支援など次年度以降も継続的に行う。

減災や流域治水に関する新たな取組や工夫した取組について



上富良野町長

代理出席：副町長

- 田んぼダムに関する取組を継続して実施。
- 備蓄品の増強。
- 防災士を対象に旭川建設管理部より講師を派遣し防災スキルアップ研修会を実施。
- 出前講座による防災教育、社会福祉協議会の防災訓練への支援。
- 防災行政無線のデジタル化、町立病院建設建て替えに際し水害を想定した高さに施工。
- ハザードマップをその他災害の備え、避難時の持ち出し用品なども記載したハザードブックを作成して全戸に配布。



中富良野町長

代理出席：総務課長

- 洪水浸水ハザードマップや水防計画の更新・修正。
- 住民や消防団、福祉施設が参加する水害を想定した防災訓練を適宜実施。
- 河川上流域の降雨量を把握する気象情報モニタリングシステムの試行運用中。
- 土砂流出入復旧工事への補助金制度導入による被害軽減対策を推進。



南富良野町長

代理出席：副町長

- 町職員参加による防災訓練、町民を対象とした防災訓練、小中高等学校での1日防災学校、社会福祉施設等での防災講話等を実施。
- 平成28年の豪雨災害からの復興の象徴としてMIZBEステーションの建築工事が開始。



空知川地域部会長
空知川河川事務所長

- 各自治体が防災対応・教育に取り組んで訓練を行っていることを把握。
- 備蓄品の資材や機器はできるだけ訓練で使用して、使い方や動作確認を行い検証を行ってほしい。
- 特にエンジン系の潤滑オイルや燃料は劣化しやすく、有事の際に動かなくなることが危惧されるので、日頃から稼働を確認することも良いのでは。
- 減災対策は継続していくことが重要。他の市町で行っている対策を参考にして、現在行っている対策をさらに発展させ継続していただければと思う。